

企業ニュース トクヤマ

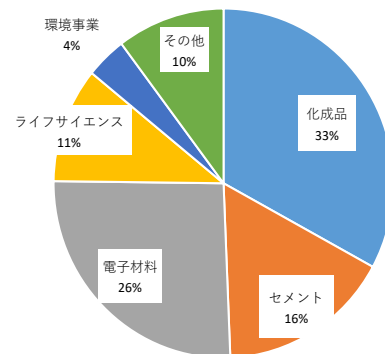
(東証プライム : 4043) <https://www.tokuyama.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

多結晶シリコン、セメントなども手掛ける化学メーカー

1918年、ソーダ灰（炭酸ナトリウム）国産化を目的に日本曹達工業設立。1936年、徳山曹達に社名変更。セメントや苛性ソーダなどの無機化学、塩ビ樹脂などの石油化学などに事業領域を拡大させてきた。1994年、現社名に変更。山口県の徳山（現周南市）に総面積191万㎡（東京ドーム40個分）の製造所を持つ。半導体基板シリコンウェーハの原料、多結晶シリコンでは世界シェア20%。その他、フォトレジスト用現像液、CMP酸化膜用シリカ、洗浄用高純度IPA、パッケージ向け放熱材用窒化アルミニウムなど、多くの半導体製造工程で用いる部材で高いシェアを有する。セメント事業も当社の特徴の一つ。廃棄物を受け入れ原料として利用している。同事業では、構造改革として、セメントキルン（回転窯）1系列の停止が検討されている。

◇23. 3期売上高構成比



(出所) トクヤマ資料よりCAM作成

価格修正浸透、原燃料価格上昇一服で業績回復

23. 3期の連結業績は、売上高が3, 518億円、前期比20%増、営業利益が143億円、同42%減。化学品、セメント及び半導体関連製品などで販売価格修正を進めたことなどにより全セグメントで増収となったが、営業利益では原燃料コスト増や市況の悪化を補えず減益となった。製品価格値上げ影響は520億円にとどまる一方、原燃料コスト増の影響は563億円悪化した。化成製品及びセメントセグメントが厳しい事業環境であった。

24. 3期連結業績の会社計画は売上高が3, 800億円、前期比8%増、営業利益が300億円、同109%増。化学品、セメントの価格修正が浸透。一方、原燃料価格は一服、販売価格修正に伴う収益性改善を享受する。有形固定資産の減価償却方法を定額法に変更し減価償却費54億円の減少も増益に寄与。セメント事業は営業赤字から黒字転換、同97億円増益、全体の増益のけん引役を見込む。キルン停止検討について期限は明確には定めていないが、上期中の検討終了を目指している。キルン停止による減産分は輸出向けや国内の不採算向け供給で調整、中期的な増益要因となる。

[株価動向・投資判断]

セメント事業が短期的には、値上げの浸透に加え、原燃料価格下落により収益が改善、中期的には構造改革成果による収益性向上が見込めよう。

<4043 トクヤマ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
22. 3	293, 830 (▲ 3)	24, 539 (▲ 21)	25, 855 (▲ 16)	28, 000 (14)	389. 1	70. 00
23. 3	351, 790 (20)	14, 336 (▲ 42)	14, 783 (▲ 43)	9, 364 (▲ 67)	130. 2	70. 00
24. 3 予	380, 000 (8)	30, 000 (109)	30, 000 (103)	22, 000 (135)	305. 8	70. 00



[主要株価指標]	(売買単位 : 100株)
株価 (2023/5/12)	2, 145 円
年初来高値 (高値日)	2, 234 円 (23/5/1)
同 安値 (安値日)	1, 717 円 (23/1/16)
予想 P E R (24. 3 予)	7. 0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3, 189. 0 円
P B R	0. 67 倍
予想配当利回り	3. 26 %
(1株当たり配当金 70. 00円)	
R O E (23. 3)	4. 1 %
発行済み株式数	7, 209 万株